

## 教務日誌に見る昭和19年度の樟蔭女子専門学校

学芸学部 国文学科 白川 哲郎

**要旨：**本稿ではまず、樟蔭学園に遺る樟蔭女子専門学校の教務日誌のうち、昭和19年度(1944年4月～45年3月)分について翻刻、紹介した。次に、昭和19年度教務日誌の記事について、主に勤労働員・繰り上げ卒業・空襲という三つの観点から考察した。いずれの点からも、当時の樟蔭女専の動きが政府の方針に則ったものであったことが浮き彫りとなった。それが、現実感を帯びてきた空襲の脅威に備えつつ、国策に則って生徒を勤労働員に集団動員する、十五年戦争最末期における女子高等教育の学校現場の実態だったのである。

**キーワード：**女子高等教育、昭和19年度、教務日誌、勤労働員、繰り上げ卒業、空襲

### はじめに

本稿では、樟蔭学園(以下、「学園」と記す)に遺る樟蔭女子専門学校(以下、「樟蔭女専」と記す)の教務日誌のうち、昭和19年度(1944年4月～45年3月)分について翻刻、紹介することを通して、十五年戦争最末期の女子高等教育の学校現場がどのような状況であったのか、その一端を明らかにしたい。

現在、学園には、大正15年～昭和6年度と昭和13年度、昭和17～19年度、そして昭和23～28年度の樟蔭女専教務日誌が遺されている。十五年戦争期以前の教務日誌のうち大正15年～昭和6年度の教務日誌は、その日の出来事のうち特筆すべき事項をメモする形で書き進められており、教務日誌と言うよりもむしろ備忘録と評することができるようなものである。それに対して昭和13年度以降のものは、写真1のように、「月日・曜日」「天気」の他、「教務」「職員」「生徒」の欄が設けられた一定の形式に則って記入する帳簿が利用され<sup>1)</sup>、「教務」欄にその日の特筆すべき出来事が記録されている。現在は遺されていないものの、少なくとも昭和13年度以降書き継がれたものと推測される。

筆者は、所属の国文学科歴史文化専攻で担当する「歴史文化総合研究A」の授業において、2010年度、受講生とともに上記教務日誌の翻刻作業に着手した。その成果を基に本稿では、昭和19年度の教務日誌の内容を紹介する。紙数の都合もあり当該年度に限定するが、他の年度についても今後順次紹介して行きたい。

昭和19年度は、樟蔭女専出身の著名な作家田辺聖子が樟蔭女専に入学した年度にあたる<sup>2)</sup>。昭和19年度の教務日誌を考察することは、田辺が樟蔭女専で過

写真1 昭和19年度の教務日誌(12月7日)

ごした学生生活の一端を学校側の資料から確認することを意味しよう。そして何よりも、戦局が悪化の一途をたどりつつあった十五年戦争最末期の、この大阪の地における、女子高等教育の実態を明らかにすることにつながると考える。

### 1 昭和19年度教務日誌の翻刻

ここでは、昭和19年度教務日誌の中から「教務」欄を、後掲の「表 昭和19年度樟蔭女子専門学校教務日誌(抄)」として翻刻、紹介する。加えて、「職員」欄のうち教務に関わると判断される内容についても、あわせて翻刻、紹介する。なおその際、樟蔭女専の生徒・卒業生、あるいは教職員等の死亡に関連する記事については省略した。

表 昭和 19 年度樟蔭女子専門学校教務日誌 (抄)

日付	曜日	天気	教務記事
4月2日	日	雨	午後職員会
4月3日	月	曇	神武天皇祭
4月4日	火	晴	一、午前九時運動場ニテ校長ヨリ始業式ノ訓辞アリ 一、式後各教室ノ整理ヲナシ学級委員ヨリ諸般ノ注意ヲナス 一、高女入学式(午後) (以下省略)
4月5日	水	晴	一、入学式 午後一時三十分ヨリ入学式ヲ行フ校長ノ訓辞ニ次テ新入学生田原義江ノ宣誓ノ辞大谷智江ノ歓迎ノ辞アリ後保護者ニ対シ山瀬保護者會長ヨリ保護者ニ入會セタルヤウ懇懇セラル
4月6日	木	晴	一、本日ヨリ二年以上授業開始 一、第一学年生八午前八時五十分森氏邸宅内八幡宮ニ参拜シ後学級主任ヨリ注意ヲ與フ 一、武田榮養化学工業所ヨリ勤勞奉仕報酬持参
4月7日	金	雨	一、二年以上各学級々長任命セラル
4月8日	土	雨	一、大詔奉戴日 神社参拜ヲ行フ 一、第三次補欠通知ヲ発ス國語欠員数一通知数一 育兒 二 三 保健 三 理化 二 四 被服 一 一
4月10日	月	晴	一、江馬講師出講第二回
4月11日	火	曇	一、第六時防空演習 本日ハ自衛防護及各警察補助員ヲ調査整備ス
4月12日	水	晴	一、軍服修繕 技式
4月13日	木	雨	一、被服廠ヨリ被服作業場調査ニ来校 一、報國隊連絡會上原教授出席 一、軍服修繕 技式
4月14日	金	晴	一、本日ヨリ昼食ヲ給與ス 一、各科一年級長ヲ任命セラル 一、軍服修繕 技三
4月15日	土	晴	一、軍服修繕 技三
4月17日	月	晴	一、軍服修繕 庭ニ 櫻桃 一、第三次補欠入学通知ヲナス 育兒、保健、物理科各一名宛
4月18日	火	曇	一、軍服修繕 庭ニ 櫻桃 一、第六時防空訓練本日ハ救急看護ノ練習ヲナス
4月19日	水	雨	一、午後報國隊連絡會、上原教授出席 一、午後警防団訓練見學ノ為竹村教授出張 一、軍服修繕 家政科二年
4月20日	木	晴	一、軍服修繕 家政科二年 一、午後身体検査ヲ行フ四日間ノ予定、検査係 技藝科三年月組
4月21日	金	晴	一、家政科三年軍服修繕 一、報國隊連絡會上原教授出席
4月22日	土	晴	一、身体検査。引続キ午後身体検査ヲ行フ 一、江馬講師出勤第三回
4月24日	月	晴	一、御所拝観願府廳へ送達ス(国文科三年) 一、軍服修繕 家庭科二年 梅李組 一、引続キ午後身体検査ヲ行フ
4月25日	火	晴	一、靖國神社臨時大祭御親拝當日ニ付朝訓示ヲナシ英靈ニ感謝黙禱ヲ行ヒ休業ス
4月26日	水	晴	一、身体検査完了
4月28日	金	雨	一、本校創立記念日 朝會後校長ヨリ祝辞ヲ述ヘラレ後普通授業ヲナス午後ハ映画鑑賞會ヲ開ク
4月29日	土	曇	一、天長節 午前十時半拝賀式舉行
5月2日	火	晴	一、第六時防空訓練ヲ行フ
5月4日	木	曇	一、午後防空訓練ヲ行フ 一、現講堂ノ机椅子等ヲ物置ニ運搬ス
5月5日	金	晴	一、午前六時半[訓練]空襲警報発令自衛防護團員集合警戒シタルモ事ナク終レリ八時解除セラル
5月6日	土	晴	一、勤勞作業ニ出勤セシ生徒ニ対シ報酬及電車賃トシテ一日一円四十銭ノ割ニテ交付ス 一、防空補助員出勤状況及自衛防護員出席者ヲ調査ス補助員ノ分ハ大体出席セルモ実施状況ハ各警察署区々ナリ要スルニ夜間女子出勤ハ当路者ノ攻究ヲ要スヘキ点多キヤウナリ 江馬講師講義第四回
5月8日	月	晴	一、宣戰ノ詔勅奉讀式ヲ行フ慰問端書醜金例月通り
5月9日	火	晴	一、第六時救急看護法練習
5月10日	水	雨	校長姫路へ出張
5月11日	木	雨	一、報國隊連絡會午後原教授出席
5月13日	土	晴	一、保護者委員會開催 木谷蓬吟第一回国文講義国文科全部第一、二時 江馬氏第五回
5月15日	月	晴	一、国文科一年千葉教授指導法隆寺見學
5月16日	火	晴	一、第六時防空各学級教室ニテ救急看護ノ練習ヲ行フ 木谷氏講義第二回 山田氏科学科教学担任トシテ本日ヨリ出勤
5月17日	水	曇後雨	一、軍用シャツズボン下裁縫講習 被服廠ヨリ指導員三名来校、和洋裁縫教員午後講習ヲ受ク 一、文部省主催勤勞動員ニ関スル協議會開催ニ付上原教授出席ス 十九年度生徒ノ級寫真撮影
5月18日	木	晴	一、被服裁縫講習前日通り
5月19日	金	晴	一、被服裁縫講習前日ノ通り 一、放課後報國會各委員長會ヲ開ク
5月20日	土	曇	一、被服講習前日ノ通り 木谷氏第三回講義 江馬氏第六回講義
5月21日	日	晴	一、午後二時ヨリ保護者會開催職員ハ一時登校
5月22日	月	晴	一、青少年生徒ニ賜ハリタル勅語奉讀式ヲ行フ 一、枚岡神社へ戦捷祈願ノ為参拜シテ午後三時帰校ス 一、被服裁縫講習前日通り 一、上下校取締ヲ週番制度ニテ行フ
5月23日	火	晴	一、午前被服講習前日通り終了 一、第六時防空総合演習ヲ行フ 木谷氏講義第五回
5月25日	木	晴	一、國文科三年山口氏指導万葉地理見実地踏査
5月26日	金	雨	一、竹村、細井両氏爆彈投下演習見學ノ為午前中長柄方面へ出張 一、学生報國隊大阪地方部連絡會開催午後原氏出席
5月27日	土	雨	一、午後海軍記念日ニ対スル訓話ヲナシ後戦争映画ヲ観覽セシム 一、四時半ヨリ報謝會ヨリ招請アリテ十八年度卒業生保護者代表ヨリ感謝ノ挨拶アリ 江馬講師来校 第七回
5月29日	月	晴	江馬講師午前殿上説明第八回
5月30日	火	晴	一、國文科三年京都御所拝観細川教授引率 一、國文科二年京都史蹟見學加藤講師指導 一、第六時防空壕修繕ヲナサシム
5月31日	水	晴	江馬講師講義(第九回)
6月6日	火	晴	一、第六時竹村教授ノ防毒ニツイテノ講話ヲ聴カシム
6月7日	水	晴	江馬氏故実講義第十回
6月8日	木	曇小雨	一、大詔奉戴日分行進ヲナシ後神社参拜ヲ行フ生徒醜金八拾參円九拾銭 河西教授鍛鍊講習ノ為伊勢神宮皇學館へ十一日迄出張
6月9日	金	晴	一、第一時校長ヨリ時局ニ関スル訓話アリ
6月10日	土	晴	一、家政、技藝科第三学年日本服飾史講話第一回 江馬氏(十一回)
6月13日	火	晴	一、第六時竹村一教授ヨリ全生徒ニ対シ防空ノ講話アリ
6月14日	水	晴	江馬講師 家技三年・服飾史講義 國文科一年 第十一回

6月15日	木	晴	一、学生報國隊連絡會、上原教授午後出席」 一、学生服地配給二閉スル協議會、矢島書記午後出席」 一、午後五時三十五分警戒警報発令職員及附近ノ自衛防護団員參集警戒ス」 出勤教員」 大江 小林 小宮山 千葉 飯島 矢島」 森中 新田 祐源 竹村 谷口 古澤」 櫻尾 安藤 弓場 佐々木 北尻」 細井 上原
6月16日	金	晴	一、警戒警報中ニ付自校防護団員出席。補助員ハ各家庭ニ於テ待機セシム」 一、職員會午前十時ヨリ勤務奉仕ニツイテ校長ヨリ講話アリ
6月17日	土	雨	一、警戒警報中ニ付自衛防護団員登校警護ニ當ル
6月18日	日	晴	一、午前、前日通り自衛防護団員登校警護ニ當ル」 一、零時三十分警戒警報解除発令ニ付生徒三下校ヲ命ス
6月20日	火	雨	一、第六時救護ノ訓練ヲ行フ竹村一教授巡回指導ヲナス
6月22日	木	晴	一、午後映画鑑賞會ヲ開ク」 一、大阪府厚生事業協會ヘ牛乳料トシテ貳拾円寄贈」 一、楠本元阪大総長退職記念奨學金參拾円寄贈
6月24日	土	晴	一、放課後報國會役員會ヲ開ク」 江島講師 家技服飾史第四回終了
6月27日	火	雨	一、第六時竹村一教授指導」各学級教室ニテ救護訓練ヲ行フ
6月28日	水	曇	江馬講師國一故実第十三回
7月3日	月	曇	一、各一年甘藷ノ種播ヲナス
7月4日	火	曇	一、午前九時警戒警報発令補助員八直ニ下校セシメ自衛防護団員ヲシテ学校防護ニ當ラシム夜間ハ寮生専ラ防護ニ當ル(午後五時ヨリ翌朝八時迄)
7月5日	水	曇少雨	一、警戒警報中授業停止、午前八時迄寮生防護ニ當タリ同刻ヨリ布施市在在生徒三分ノ(二十名)出勤防護ニ任ス」 職員全部出勤」 一、午後五時三十分警戒警報解除
7月6日	木	晴	一、授業平常通り
7月8日	土	晴	一、午前一時警戒警報発令自衛防護団員出校警備ヲナス」全四時三十分警戒警報解除寮生及布施在在生徒ノ夜間出勤セシ者ニハ午前休養時間ヲ與ヘ午後出校セシムル」トス」 一、朝會ノ際宣戰ノ詔書奉讀式ヲ行ヒ後森理事邸内宇佐八幡宮ニ參拜ス」 夜間出勤教員」 祐源 西川 小宮山 竹村 飯山 上原 大江」 河西氏午後ヨリ徴兵点呼予習ノ為三日間欠勤
7月10日	月	曇	一、訓練防空演習」 午前五時警戒警報発令七時三十分空襲警報発令七時四十分及八時敵機來襲九時警戒警報解除」 本日ノ訓練ハ寮生専ラ之ニ當リ通学生ハ途上待避ノ訓練ヲ行フ」トセリ成績徒ナラズ」 河西氏引続キ公用欠勤
7月11日	火	晴	一、細川、上原兩教授生徒勤勞作業ニツキ打合ノ為大阪被服支廠武中中尉ヲ訪問シ諸般ノ協議ヲナセリ」 一、防空時間竹村(保)教授ノ講話ヲ聴ク
7月12日	水	晴	河西氏公用欠勤」 江馬氏國文科講義第十四回終了
7月13日	木	晴	一、文部省ヨリ学徒勤勞動員出勤状況ニツイテ昨夜電報ニテ照會アリ本日返電及調書ヲ發送ス」 一、学生報國隊連絡會開催例ニヨリ上原教授出席
7月15日	土	晴	大阪陸軍被服廠ヨリ職員募集ノ為森一郎大尉松島茂樹中尉ノ兩氏來校
7月17日	月	晴	一、第一時時局ニ関シ生徒ノ進ムベキ道ニツイテ校長ノ講話アリ
7月18日	火	晴	一、上原教授被服分工場開場式打合ノ為被服廠ニ武中中尉ヲ訪問シ明十九日午前十時開場式ヲ行フ」トセリ協定ス」 一、陸軍大阪被服支廠長外二名工場視察ノ為來校セラル」 一、第六時防空、自衛防護ニ當ルモノハ基本訓練ヲ行ヒ補助員ハ各教室ニテ救護ノ練習ヲナス
7月19日	水	晴	一、本校工場化大阪被服廠分工場開場式舉行」 午前十時開始」 一、国民儀禮」 一、国歌奉唱」 一、学校長訓話」 一、被服分廠長式辞」 一、武中中尉訓示」 一、細川中隊長挨拶」 一、技三坂本宣誓文奉讀」 出勤者本科三年全部百八十一名
7月20日	木	曇	一、本日ヨリ被服裁縫作業開始」 第一回勤勞作業指導者」 細川 中島」 西川 小宮山」 坂入氏」 一、戦力昂場布施市民大會」 午前六時開會細井、上原引率」寮生、生徒代表トシテ七十名参加ス」 一、大阪府警察部特高課嶽釜吉二氏來校生徒思想等ニツイテ質問アリ」 一、内閣総辞職ノ発表アリ
7月23日	日	晴	一、大阪府主催國民戦力昂場大會ニ生徒代表十五名出席」中島教授引率」(午後二時中ノ島ニテ舉行)
7月25日	火	晴	一、防空時間」各教室ニテ救護訓練
7月30日	日	晴夕立	一、三年生勤勞休業
7月31日	月	晴驟雨	一、生徒三百名動員被服支廠ヘ出勤スル」トナリシヲ以テ本放課後職員會ヲ開キ校長ヨリ御話アリ」
8月1日	火	晴夕立	一、細川教授勤勞作業ニツキ打合ノ為阪大報國隊府廳及被服廠ニ出張」 一、上原教授教務上ノ打合ノ為梅花女專、大谷女專ヘ出張」 一、第六時救護ノ訓練ヲ行フ竹村一教授指導
8月2日	水	晴夕立	一、第二時生徒ニ対シ学徒勤勞出勤ノ急務ナル」ト及二年生ハ明日ヨリ十月迄陸軍大阪被服支廠ニ出勤スヘキ」ト訓示セラレシ」 終リテ上原中島兩教授授ヨリ微細ナル点ニツイテ注意アリタリ
8月3日	木	晴	一、本科家庭科二年三百三十九名陸軍大阪被服支廠ニ暫定的出勤」 引率者 中島 千葉 仲田」 新田 日高 五氏
8月4日	金	晴	一、第六時校長ヨリ全生徒ニ対シ住友化学工業會社ノ要求ニヨリ育兒科一年四十五名ヲ暫定的ニ出勤セシムル旨訓話アリ」 一、山本講師河西教授指導物理化学科生徒、大阪測候所見學(第三時ヨリ)」 一、午前七時三十分警戒警報発令參集教員」 和田 祐源 守田 古沢 森中」 仲田 日高 上原 西川 小林」 千葉
8月5日	土	晴	一、警戒警報未夕解除セラレサルニ付布施市通学生自衛防護ニ出勤ノ育兒科一年生出席ス」 一、午後一時警戒警報解除
8月6日	日	晴	一、午前九時布施在在生徒ハ防空訓練ノタメ布施署ニ集合各分担区域ノ指示アリタル後署長ノ訓示アリ細井上原監督」 一、
8月7日	月	昨夜未暴風雨	一、育兒科一年生四十五名 祐源北尻兩氏引率住友化学工業會社ニ約二ヶ月ノ豫定ニテ暫定的出勤ス
8月8日	火	曇	一、大詔奉戴日」 第一時都留弥神社ヘ參拜ス」 一、國民総武装発表
8月9日	水	暴風	一、國文科卒業伊藤キマ子ヨリ教員免許状受領記念トシテ金參拾円緑翠會ヘ寄贈
8月10日	木	晴	一、学生報國隊大阪地方支部ニテ本月連絡會開催(午後二時ヨリ)」上原教授出席
8月11日	金	晴	一、午前零時半警戒警報発令、空襲警報二時十分、三時半警戒解除」 参加者 千葉 上原 河西 守田 小宮山」 森中 新田 西川 祐源 和田 古沢」 小林」 一、午後二時小阪驛二英畫」 出迎」 被服科一年 西城森 中氏引率
8月12日	土	晴	一、第四時校長ヨリ十三日ヨリ二十二日マデ家庭修練ニ充ツル旨訓話アリ
8月13日	日	晴	一、本日ヨリ育兒科ヲ除ク各一年生ハ家庭ニテ修練スル」トナレリ(二十二日マデ)
8月16日	水	晴	一、細川教授打合會ノ為午前九時ヨリ被服廠ニ出張
8月20日	日	豪雨後晴	一、朝豪雨ノタメ出席稍後レシテ以テ工場ニテハ八時半始業セリ」 一、職員召集各準備室教室ノ整理整頓、工場監督ノ割当、防空ノ所属等ニツイテ了解ヲ求ム」 一、午後五時警戒警報発令全五時三十七分空襲警報発令職員左ノ通り出勤」 小林 上原 飯山 後藤 森中 新田 西川 祐源 小宮山 守田 大江 和田 細井 潮

8月21日	月	晴	一、文部省ヨリ風間属来校中等教員無試験検定認可ニツイテ書類調査及教室器具ノ設備ノ調査アリ(午前十一時ヨリ午後三時半迄) 一、午前〇時五分警戒警報発令出動職員左ノ通り 大江 小林 千葉 上原 森中 西川 小宮山 祐源 和田 細井 潮田氏
8月23日	水	晴	一、各科一年出席 一、上原教授被服支廠ニ出張当校分工場三年生卒業後、引続出動セシムヘキ生徒ニツイテ協議ヲナス 一、一年生ヲ九月十六日ヨリ出動セシムルトシ二年生ハ大阪支廠ノ事業ヲ引續キ行ハシムル
8月24日	木	晴	一、普通授業ヲ行フ 一、朝會ノ際左ノ各項ヲ 一、物理化学ハ平常通り授業ヲ行フ 一、國語、保健、被服科一年生ハ九月十二日ヨリ本校内分工場ニ出動スル、ソノ準備トシテ明日ヨリ被服裁縫ノ指導ヲ受ケテ練習スル 一、大阪被服支廠ニ学徒監督ノ為出張中ノ千葉、新田、仲田氏ハ本日限り引上グルトス
8月25日	金	晴	一、竹村 鈴木 守田 梶尾 中島 五氏本日ヨリ大阪被服支廠ニ出張生徒監督ニ任二当ル 一、物理化学科授業 一、他ノ一年生ハ軍服裁縫ノ練習ヲナス
8月28日	月	晴	一、各科一年被服裁縫練習 物理化学科ノミ授業前週ノ通り 一、
8月31日	木	晴	一、細川教授分工場所用ノ為府廳及被服廠ヘ出張
9月1日	金	晴	一、上原教授大阪被服廠ヘ出張本校生徒動労ノ状況ヲ視察ス 一、大阪被服支廠ヨリ当分工場ニ出動ノ生徒ニ七月分手當給與
9月3日	日	晴	一、当分工場休業
9月4日	月	晴	一、当分工場第一月曜ニ付休業
9月5日	火	晴	一、上原教授住友化学工業株式会社ニ出張本校生徒ノ動労状態視察
9月7日	木	驟雨	一、大阪府主催防空講習會出席者ヲ報告ス 守田、小宮山教授 一、当分工場ニテ富永負傷ス
9月8日	金	晴	一、宣戰大詔奉讀式ヲ行フ 一、防空訓練ヲ行フ(市内全部) 午後七時警戒警報発令 七時三十分空襲警報八時及八時三十分ノ二回敵機来襲ノ想定、布施市通学一年生及ヒ寮生一年生自衛防護團員及ヒ寮生臨時補助員會計四十五名参加ス 教員出動者 大江 守田 小林 西川 森中 日高 和田 竹村 祐源 新田 諸氏
9月10日	日	晴	一、当分工場作業 一、一年生防空補助員各所属警察署ニ出頭訓練ヲナス
9月11日	月	雨	一、大阪被服支廠生徒監督本日交替 新任 千葉 和田 小宮山 弓場氏 一、大日本教育會ヘ飛行機献納資金八百円送附
9月12日	火	雨	一、樟蔭報謝會員協議會開催
9月13日	水	晴	一、学生報告隊聯絡會午後二時ヨリ上原教授出席
9月14日	木	晴	一、細川教授被服廠ヘ終業式ノ件ニ付打合ノ為出張
9月15日	金	曇	一、午前九時ヨリ分工場出動学徒更替式ヲ行フ 一、国民儀礼 二、細川中隊長経過報告 三、伊賀校長訓話 四、時山少佐訓話 五、三年生代表大谷挨拶 六、竹村新中隊長訓話 七、一年生総代宣誓文朗讀 一、午後校長ヨリ物理化学科一年生ニ対シ江崎グリオ会社ニ出動スヘキヲ訓辞セラル
9月16日	土	雨	一、午前八時ヨリ一年生ハ三年生ノ後ヲ受ケテ分工場ニ出動勤勞ニ服ス総員二百貳名本日ノ出席八百九十四名ナリ 中隊長 竹村教授 班長 小林 和田教授 仲田教授 西川教授 新田教授 一、河西教授動労出動打合ノ為グリオ会社ニ出張
9月17日	日	風雨	一、工場作業ニ職員全部出動ス
9月18日	月	晴	一、分工場休業
9月20日	水	晴	一、零時半職員會 九月十三日文部次官ノ通牒「学徒動労派遣責任教職員ノ指導ニ関スル件ニツイテ訓話アリ」 一、大阪府私立高等女學校校長會、本校ニテ開催セラル
9月21日	木	晴	一、本科三年卒業試験ヲ行フ 小宮山、仲田氏府主任防空講習會ニ出席二日間
9月22日	金	晴	一、本科三年引續キ試験ヲ行フ
9月23日	土	小雨	一、本科三年登校卒業記念写真撮影 午後卒業式練習諸費徴収 一、当分工場作業休ナシ
9月24日	日	晴	一、当分工場休日ノ替ナリシモ二十五日振替ヘ出動ス 一、國文科三年級會ヲ開ク
9月25日	月	晴	一、本科卒業式午前十時森氏邸八幡宮ヘ参拜 午後一時三十分ヨリ卒業式挙行 式後記念品ヲ頒布ス 記念品 五円動労写真一組宛 祝詞 技二 堀場奎 答辞 家三 篠原保子 緑翠會員代表 河村延子 証書 受領 國 大谷智江 家 月 加藤重子 花 白築幸子 技 坂本恒子 花 長岡道子 精勤賞 技 西谷妙子 体育賞 家 荒川益子
9月28日	木	晴	上原教頭病欠ノ為本日校務打合ノ為御宅ヲ訪問セリ。
9月29日	金	晴	物化生徒ノ奉仕セル工場ニ細川教授訪問、明日ヲ以テ作業終了ニツキ挨拶ヲナシ學校トシテ謝辞ヲ呈シ置ケリ。
9月30日	土	雨	本日公私立大學高専(近畿)動労動員学徒担任者協議會ニ上原教授ノ代理トシテ細川教授出席 八月廿三日ノ学徒動労令ヲ中心ニ文部省ノ説明協議アリ午後五時閉會。」 本日被服支廠ヨリ岩谷見習士官外班長教名来校工場ニ関シ視察、テスト、懇談ス
10月1日	日	晴	物化生徒奉仕三日マデ延期 工場平日通り
10月2日	月	晴	本日學校工場休業ニツキ関係職員生徒登校セズ 本日工場ハ物化育児科ノミ
10月4日	水	晴	地方部連絡會ニ細川教授出席。八日ノ防空演習ニ関シ打合ヲ行フ。
10月5日	木	曇	物化生徒登校。午前授業。昨日ヨリ全日授業ヲ行フ。本日細川教授上原教頭ヲ訪ヒ育児科休暇ノ件ニツキ指示ヲ受ク(七日間)
10月6日	金	晴	午前九時過ヨリ學校長ニ從ヒ被服支廠ヲ訪ヒ、武中中尉其他ト交渉生徒全部本月十五日限引取方決定、支廠長ニ挨拶シ工場ヲ一巡歸校。午後細川教授育児科生ノ奉仕セル住友化学工場ヲ訪ヒ祐源教授ト教務上ノ(休暇)ソノ他) 件打合セ社長勞務課長ニ挨拶シ後現場ヲ慰問セリ。
10月7日	土	雨	八日ノ防空演習ハ雨ノ為中止ナル。
10月8日	日	曇	本日學校工場アリ 関係者出席。
10月9日	月	曇	眞島氏ヨリ本日欠勤ノ電報アリ
10月12日	木	晴	本日細川教授上原教頭ヲ訪ヒ事務打合セヲ行フ上原教頭ノ病氣略全快セリ
10月15日	日	晴	飯山書記午後八時大阪発文部省ヘ出向ス
10月16日	月	晴	一、第三月曜電氣休ノ為被服作業休
10月17日	火	雨	一、新嘗祭 一、被服工場出動、授業休
10月18日	水	曇少雨	一、育児科本日ヨリ出校掃除訓話等ヲ終リ午後下校セシム 一、午前三時ヨリ府主催防空訓練ヲ行フ職員ノ一部、一年自衛防護者十数名出動他ノ補助員ハソレタ警察署ニ出動
10月19日	木	曇	一、生徒ニ甘藷ヲ握ラシメ分與ス
10月20日	金	晴	一、卒業生宛宛信就職先ヲ報告セシム
10月23日	月	晴	細川教授被服廠ニ出向 學校工場人員ノ件ニツキ廠長ト懇談。」二年生全部歸校。午前中ニテ帰宅セシム。」 本日九時十五分全校靖國ノ祭神ニ謹シテ黙禱ヲサヘク。
10月26日	木	晴	細川教授教務上ノ指示ヲ仰グ為上原教頭ヲ私宅ニ訪フ。
10月28日	土	曇後晴	午後二時生徒代表(物化生)五名)中島教授引率布施市合同慰靈祭ニ参列セリ 細川教授櫻井女子校ニ於ケル學校工場協議會ニ出席ス
10月29日	日	晴	學校工場関係者本日出動
10月31日	火	晴	本科二年物化一年生ハ枚岡ニ行車ス 學校工場交替式ヲ午後二時ヨリ行フ
11月1日	水	曇	學校工場ハ家庭科二年、育児科一年出動 本科二年(國語科、保健科、被服科)、物理化学科一年授業休み

11月2日	木	曇	一年生休み
11月3日	金	雨	明治節祝賀式午前十時ヨリ
11月5日	日	晴	一、学校工場アリ 一、前十時過警戒警報発令 職員登校者 細井 和田 小林 後藤 古澤 上原氏 十一時半 解除
11月6日	月	曇	一、工場休業
11月8日	水	雨	一、大詔奉戴日 神社参拝 防空演習ノ為一部中止 一、大阪府下防空訓練 午前九時—十一時 午後七時—九時雨天中止
11月9日	木	晴	一、報国際連絡會細川教授出席 一、午後一時五十分頃水平動ノ大地震起ル授業中ニ付避難セシメ後水槽附近ノ溢レシ水ヲ拭カシメ臨時下校セシム [※12月7日の記事により削除線あり]
11月11日	土	曇	一、校長入学試験関西協議會ニ出席ノ為京都大学ニ出張 一、被服支廠ヨリ当工場出勤生徒身体検査ノ為軍尉来校(午後)
11月12日	日	晴	一、学校工場出勤
11月13日	月	晴	一、学校工場勤務者慰安会ヲ開ク被服支廠ヨリ辻本中尉出席講話アリ後映画會ヲ開キ全生徒ニ觀覽セシム 午前十時四十五分警戒警報発令アリタルニ付下校セシム 十一時十分警戒警報解除
11月14日	火	晴	一、第六時竹村講師指導運動場ニテ救護訓練ヲ行フ
11月16日	木	雨	一、白金製品供出数量等調 報告書ヲ提出セシム
11月17日	金	晴	一、二時ヨリ職員會 入学試験ニ付協議アリ
11月19日	月	晴	一、本日授業アリ
11月20日	火	午前雨	一、第六時竹村講師指導救護訓練 一、西九州へ米飛行機来襲
11月23日	木	晴	一、工場作業アリ 一、新嘗祭 新嘗祭
11月24日	金	晴	一、午前十一時五十分警戒警報発令生徒ヲ下校セシム自衛防護員ノミ出校セシム 午後二時五十分警戒警報解除
11月26日	日	晴	一、工場出勤
11月27日	月	雨	一、零時五十分警戒警報発令二時頃空襲警報発令二時五十分警戒警報解除 午後大阪府私立女専校長會ヲ当校ニテ開カル
11月28日	火	曇	一、第六時待避壕ヲ各級ニ割當テ待避ノ練習ヲナス
11月30日	木	雨	一、午後一時級主任會ヲ開キ欠席取締ノ件ニ付協議ス 一、未明東都ヲ空襲セリトノ放送アリ
12月2日	土	晴	一、朝會ノ際防火デー及ヒ銀供出ノ件ニツイテ注意ス
12月3日	日	晴	一、授業ヲナス
12月4日	月	晴	一、使用二塚ヘサル箒ノ取替ヲナス(百三十本)
12月5日	火	晴	一、朝會ノ際清掃ノ件ニ付生徒ニ注意ス 一、食後掃除監督ノ件ニ付職員會ヲ開ク 一、第六時防空壕ニ待避ノ訓練ヲ行フ
12月7日	木	曇	一、第二時火災ヲ想定シ各教室ノ器械器具ヲ運動場ニ搬出スル訓練ヲ行フ成績良好大抵十分乃至十五分ニテ搬出スルヲ得タリ 一、報国際連絡會細川教授出席 一、午後一時五十分水平動ノ大地震起ル授業中待避セシメ後水槽附近ノ溢レシ水ヲ拭カシメ臨時下校セシム
12月8日	金	晴	一、午前十時二十五分警戒警報発令下校セシム十一時〇分解除
12月9日	土	晴	一、保護者委員會午後二時ヨリ
12月10日	日	晴	昼食後中部地区警戒警報発令アリシカ數分間ニシテ解除トナリタリ
12月12日	火	曇	一、本日午後一時二十二分伊勢神宮ヲ遥拜シテ日米戦完勝ノ祈願ヲナスヘキ旨朝會ノ際訓示シ同刻放送ノ合圖ニヨリ教室ニテ祈願ヲナス 一、第六時竹村講師ノ指導ニヨリ待避及救護訓練ヲ行フ成績良好
12月13日	水	晴	一、午後二時頃警戒警報発令四時過解除
12月15日	金	曇	一、午前十時半警戒警報発令十一時頃解除午後授業
12月17日	日	晴	一、本科授業アリ
12月18日	月	晴	一、工場休業 一、午前十時警戒警報発令午前十時三十分解除 一、午後二時警戒警報発令續ケテ空襲警戒警報発令大阪府神戸京都上空ニ敵機編隊ニテ侵入四時頃全警戒解除セラル
12月19日	火	曇	一、午前二時警戒警報発令少時ニシテ解除
12月22日	金	晴	一、警戒警報発令〇時二十五分空襲警戒警報〇時四十分警戒警報解除三時三十分無事
12月23日	土	晴	一、警戒警報発令零時十分空襲警戒警報〇時二十分、空襲解除壹時三分警戒警報解除一時三十分無事 一、第一時會館ニテ校長訓話アリ本科一年生ハ動員令下リタルニ付一月六日頃ヨリ出勤スヘキ 一、試験ヲ一月三日ヨリ三日間執行スヘキニ付十二月廿六七日ハ学校内ニテ自習トスベキ
12月25日	月	晴	一、大正天皇祭
12月26日	火	曇	一、午前十一時頃警戒警報発令直ニ解除 一、武中中尉工場視察
12月27日	水	晴	一、朝會ノ際校長ヨリ二十八日ヨリ一月二日マデ授業休止ノ件ニ付訓話セラル
12月28日	木	晴	一、本日ヨリ六日間授業休止
1月1日	月	晴	一、午前十時拜賀式挙行
1月3日	水	晴	一、午後一時半警戒警報発令次イテ空襲警戒警報発令三時半解除 一、本科二年及育児科ヲ除ク一年試験執行
1月4日	木	晴	一、午前二時半警戒警報発令学校へ出勤セシ教員 細井、大江、上原、祐源氏 一、試験第二日
1月5日	金	晴	一、試験終了 一、九時四十分頃警戒警報発令十五分後解除 一、午前十一時軍人勸諭奉読式ヲ行フ
1月6日	土	晴	一、本日ヨリ勤労出勤スルモノ 松下會社 守田 櫻尾 大阪中央郵便局 千葉 弓場 中央電話局 全
1月7日	日	晴	学校工場関係 並ニ 飯山 後藤氏出勤
1月8日	月	晴	第一時 防空演習 第二時ヨリ第三時 焼夷彈實演見學 第四・五時 授業 二年生出勤 塚金属 河西 谷口氏 湊町管理部 鈴木氏
1月9日	火	晴	第五時開始前警戒警報発令 生徒帰宅ス。
1月10日	水	晴	都是塚口工場ヨリ木村事務課長 島田教育課長来校又校長室ニテ一年生入寮ニ関スル打合ヲ行ヒ後校舍設備ヲ一巡案内セリ。」 枚方製造所入所式ニ竹村、仲田、佐々木氏出席
1月11日	木	曇	学校報國會地方部連絡會ニ細川教授出席ス 鈴木教授来校報告アリ
1月13日	土	曇	一、授業午前中 一、后一時三十分警戒警報発令 一、保護者委員會午後開催
1月14日	日	晴	一、午後一時警戒警報発令續ケテ空襲警戒警報発令、全四時頃解除
1月15日	月	晴風	一、校長ヨリ一年生ニ對シ都是工場ニ出勤ツイテ訓話アリ後細川教授ヨリ細目ニツイテ注意セラル 一、工場休業
1月16日	火	晴	一、一年生臨時休業 一、都是工業出勤生監督教員塚口工場ニ出張諸般ノ打合セヲナス 一、入学志願者累計 國語科 五〇 育児科 二九 保健科 三四 被服 七七 物化科 一九 計二〇九
1月17日	水	晴	一、本科一年臨時休業
1月18日	木	晴	一、本日ヨリ本科二年(育児科ヲ除ク)塚口町都是工業株式會社へ勤勞作業ニ出勤 監督者竹村 河西 祐源 安藤 弓場 五氏 一、入学願書整理ノ分 國語科 八六 育児科八五 保健科 七三 被服科 一五四 物化科三一 計 四二九

1月19日	金	晴	一、午後一時十五分警戒警報発令三時十分解除」一、午後十二時警戒警報発令」二、夜ヨリ明朝ニカケテ三回警報発令
1月20日	土	晴	一、午後八時警戒警報発令
1月21日	日	晴	一、大阪被服廠ニ開催ノ懇談會」細川 中島両氏出席」一、午前一時及五時警戒警報発令
1月22日	月	晴	一、午後一時職員會へ各出勤先工場ヨリ職員一名又八数名出席職員ヨリ勤労状況ヲ報告シ打合ヲナス
1月23日	火	晴	一、午後一時警戒警報次イデ、空襲警報発令五時解除
1月24日	水	晴	一、午後八時頃警戒警報発令
1月25日	木	晴	一、本校工場勤務谷村被服廠工員應召ニ付午後二時工場職員生徒壮行式ヲ挙ゲ上原教授及生徒代表ノ壮行ノ辞、谷村氏ノ挨拶アリ尚報國會ヨリ金五十拾円饗別トシテ贈呈ス」一、午前一時半警戒警報発令」入学願書受付」國語科 二一九」育児科 二一三」保健科 一七〇」被服科 四〇七」物化科 八八」計 一〇九七」外ニ東西樟蔭」約二四四」
1月27日	土	晴	一、府主催ニテ高女防空訓練ヲ行フ」一、零時十分警戒警報発令
1月29日	月	晴	一、午後九時頃警戒警報発令
1月30日	火	晴	一、午前〇時十分警戒警報発令爆弾投下ノ響アリ」午前一時半同様発令爆弾投下ノ響アリ
1月31日	水	晴	一、午後十一時警戒警報発令全四十分解除
2月1日	木		一、午後七時五十分、全十二時、午前五時警戒警報発令
2月2日	金		一、午前五時警戒警報発令
2月3日	土	曇	一、午後七時五十分、午前零時四十分、五時十分警戒警報発令
2月4日	日	曇	一、午前九時、午後二時警戒警報発令
2月5日	月	晴	一、午後十一時五十分警戒警報発令
2月6日	火		一、午前一時 一時四十五分警戒警報発令」午後八時十分警戒警報発令
2月7日	水	雪	一、午前二時二十五分警戒警報発令」一、夜ニ回警戒警報発令
2月8日	木	晴	一、午前二時警戒警報発令
2月9日	金	晴	一、第一次入学試験合格者発表」國語科 一一六」育児科 一三七」保健科 一二七」被服科一九〇」物理化学科 六三」計 六三三」追加 保健科一名」一、午前二時頃警戒警報発令
2月11日	日		一、紀元節
2月14日	水	晴	細川教授御所高女ニ於ケル學校工場長會議ニ出張ス
2月15日	木	晴	午後一時五十分頃警戒警報発令三時過解除
2月20日	火	晴	一、入学試験準備ノ為係員出勤
2月21日	水	晴	一、午前八時ヨリ入学試験ヲ行フ」筆答試験ハ文章ヲ訓読シテソノ要旨及感想ヲ記サシム」右終リテ口頭試問身体検査ヲ行フ」一、文部省ヨリ學校報國隊事業費補助金千円送附セラレシムニ付竹村教授ニ渡ス」一、試験中無事午後七時警戒警報発令
2月22日	木	晴	一、口頭試問及身体検査午前八時二十分開始」午前十時空襲警報発令受験者ヲ待避セシム十分間ニシテ解除再ヒ試験ヲ行フ
2月23日	金	晴	一、午前十時報國隊聯絡會開催ニ付細川教授出席」一、午前九時入学受験者ヲ會議館ニ集メ校長ヨリ入学手續等ニツイテ訓話アリ
2月24日	土	晴	一、入学試験答案 細川 小林教授調査中」一、午後七時頃警戒警報発令約一時間ノ後解除
2月25日	日	雪	一、細川 小林 両氏入学試験答案調査」一、午後一時五十分警戒警報大編隊ニ敵機来襲三時過解除
2月28日	水	晴	一、入試者査」中島教授 櫻井高女へ出張」森中教授日高助教授退職
3月1日	木	晴	一、入学試験成績発表」學校及志願者へ通知シ尚本校ニ揭示ヲナス」國語科 四七」育児科 九四」保健科 四六」被服科 九四」物理化学科 四六」計三二七名
3月3日	土	晴	一、文部省ヨリ本年度入学生増員ノ旨通告アリ」総計 六十三名」育児科 一八」保健科 九」被服科 一八」國語科 九」理化科 九」一、山田隆雄講師母堂永眠セラル職員及生徒各代表参拝
3月4日	日	雨	一、文部省ヨリ生徒増員通知アリシニ付成績調査ヲナス
3月5日	月	曇	一、増員入学許可ノ旨通知ス」國語科 八人」保健科 九人」被服科 十八人」育児科 十八人」物化科 十人」計 六十三人」一、工場休業」二、地久節工場出勤生徒及高女一、二年式ニ参列儀式ヲ行ハス
3月6日	火	雨	一、地久節儀式挙行
3月10日	土	小雪	一、保護者委員會
3月12日	月	晴	一、入学生取消ノ為増員トシテ合格通知書発送」育児科 二」保健科 三」被服科 二」國語科 三」計一五名」右十七日ニ回答スルヤウ通知ス」一、午前〇時及八時警戒警報発令」一、本日停電ノ為工場休業
3月14日	水	雨	一、早朝大阪大空襲大火災アリ布施市ニモ二ヶ所投弾
3月17日	土	晴	一、千葉教授出征ニ付壮行會ヲ開キ清交會及報國會ヨリ饗別金ヲ呈シ行ヲ壮ニス
3月18日	日	晴	一、文部省関口教学官來校視察」一、高女入学試験」一、警戒警報発令
3月20日	火	晴	一、試験成績点提出
3月21日	水	晴	一、秋季皇靈祭
3月23日	金	晴	一、高女生徒圖書ヲ東樟蔭へ運搬ス
3月30日	金		家庭科卒業式」午前九時より 一五〇名卒業。
3月31日	土		教務主任上原延蔵氏退職せられ細川教授事務引継了了。

注 1) 』は改行を示す。2) 下線は抹消を示す。3) 明朝体文字は誤字と推定される文字を示す。

## II 十五年戦争末期の学校生活

昭和19年度は、4月4日の始業式で始まった(同日)<sup>3)</sup>。翌5日午後には入学式が行われ、国語科・育児科・保健科・被服科・物理化学科の新入生を迎えた(同日)。かかる学科編成は、この年1月に発表された「女子専門学校教育刷新」に基づき、全国一律に実施された女子高等教育の改編によるものであった<sup>4)</sup>。6日になると2年生以上の授業が開始され(同日)、昭和19年度の動きが本格的に始まる。

それでは、教務日誌の記事に基づいて、昭和19年度の樟蔭女専の状況について、勤労働員・繰り上げ卒業・空襲という三点から見て行こう。

### 1 勤労働員

この年入学した1年生への授業は8月12日まで続き、住友化学工業会社に勤労働員されていた育児科の生徒を除いて(8月7日)、翌13日から22日まで「家庭修練」という形で短い夏休みが与えられた(8月12日)。もちろん、授業と言っても平常通りの授業が

行われていた訳では無く、生徒は全員交替で勤労働員され、動員先での作業に従事していた。したがって、勤労働員の合間に授業を受けていたと言う方がむしろ正確であるかもしれない<sup>5)</sup>。

1年生が「家庭修練」とされた間も、2年生は陸軍の大阪被服支廠に、3年生は学校工場に動員されている(8月2日・3日・20日)。この学校工場は、4月中旬から陸軍大阪被服支廠の分工場として準備が進められ(4月13日、5月17～20・22・23日)、7月19日に開場したもので(7月18・19日)、翌20日から縫製作業が開始されている(同日)。

8月23日には1年生が登校し、「普通授業」が行われた(同日)。そして、物理化学科を除く学科の1年生は、同月25日から軍服の裁縫を練習することになったが、それは3年生に代わって9月12日から学校工場での作業に従事するための措置であった(8月23～25日)。9月15日、「更替式」が9時から行われ、学内工場の動員生徒が3年生から1年生に交代する(同日)。翌16日からは、物理化学科以外の1年生が学内工場での作業に従事している(同日)<sup>6)</sup>。学校工場での作業について田辺聖子は、次のように記している。

学校ではいそぎ校舎の一部を改築して学校工場(軍服縫製)を作った。ともあれ私たちは旋盤から解放されて、軍服を縫う作業に替った上に、半日授業が実現した。このとき被服科が動力ミシンで縫製を受け持ち、国文科はボタンホールかがりだった。私は今でもボタンホールかがりが得意だ。

(『楽天少女通ります 私の履歴書』〈角川春樹事務所、2001年〉88ページ、初出は1998年)(前略)〈良え衆〉の親たちはたちまち、学校にかけあって学校工場を作らせる。女専には被服科、家政科があるから、縫うのはお手のもの、というので、軍服を縫う工場を作ったのである。国文科・数学科は軍服のボタンホールかがりの班になった(私は今でもボタン穴かがりだけはお得意だ)。

学校工場は家から通えるし、空き時間に講義も受けられるから、楽しかった。……そのうち、日本もいよいよ物資が尽きたのか、軍服の材料さえまわってこなくなった。

(『田辺写真館が見た“昭和”』〈文藝春秋、2005年〉224ページ)

田辺の記述が1945年(昭和20)の状況について述べたものであることには注意を要するが、学科で分担、交代しながら軍服を製造していたことがうかがわれる<sup>7)</sup>。ただ、作業に従事させられていても学校工場であれば、

通学と同様に自宅から通えるとともに、工場での作業に従事する時間以外には授業も受けることができたこともうかがわれる。なお田辺の記述の解し方によっては、樟蔭女専生徒の保護者からの圧力が学校工場化への最大の要因であったかの印象を抱きかねないが、女子の学校における学校工場の開設は、「可及的学校設備ヲ工場化シ其ノ學校ノ生徒ヲ之ニ動員スルコト」という1944年(昭和19)3月末に出された政府の方針に則ったものであったことに注意しておきたい<sup>8)</sup>。加えて、全ての生徒たちが学校工場での作業に従事していたわけではなく、先にも触れたように同時期学校外の工場に動員された生徒たちがいることにも注意しておきたい<sup>9)</sup>。学校工場と学校外の工場、いずれかへの動員という形で、原則全ての生徒が勤労働員されていたのである<sup>10)</sup>。

年が変わって1945年になってからの勤労働員の状況についても見ておこう。

12月28日から1月2日までの短い正月休みが明けると(12月27・28日)、育児科の生徒を除き樟蔭女専では、正月早々から試験が行われた(12月23日、1月3・4日)。試験が終わると6日には、生徒は松下会社・大阪中央郵便局など各所に勤労働員され、出勤する(同日、12月23日)。

そして1月18日からは、育児科を除く1年生が郡是塚口工場へ勤労働員された(同日)<sup>11)</sup>。この郡是塚口工場への勤労働員こそが、田辺の著作の中で度々言及される学外工場への勤労働員である<sup>12)</sup>。田辺が記すようにこの時は、工場の宿泊施設に泊まり込みでの動員がなされたが、それに関わる事実として、工場の担当者が来校し、入寮についての打合せを行っていることが確認される(1月10日)。教員5名が引率・監督した(1月18日)、かなり大人数の集団勤労働員であったと言えよう。

## 2 繰り上げ卒業

先述の樟蔭女専学校工場における動員学年の3年生から1年生へ交代は、3年生の卒業に伴う措置であった。大学をはじめとする高等教育各学校で在学年限が3年を越えるものについては、昭和16年度以降その年限が短縮されていた<sup>13)</sup>。昭和19年度も同様に6か月短縮され<sup>14)</sup>、3年生は9月に繰り上げ卒業することになっていたのである。

3年生は、学内工場での作業を1年生と交代した後、9月21・22両日に卒業試験を受験し(同日)、9月25日に卒業式を迎えた(同日)。この卒業に関わる日程は、直前の9月11日教授会で決定されたものであ

た。樟蔭女専『職員會誌』<sup>15)</sup>には、次のように記載されている。

昭和十九年九月十一日、<sup>マ</sup>教授会  
 動員執務中ノ生徒ハ一ヶ月二回ノ休日テハ授業  
 ハ出来ナイ、工場テ試験ヲスルト言テモ其ハ行  
 ハレルコトデハナイ、其レテ卒業生ハ主要学科  
 ノミ二三ノ試験ヲスル、其他ハ平素ノ成績ト勤  
 労努力ヲ考慮シテ採点セン  
 其以外ハ<sup>マ</sup>干係学科担任者二、三人ノモノカ集リ  
 テ採点スル  
 国文科ハ 国、漢、倫  
 家政科ハ 生物、家庭管理、倫、化  
 技藝科ハ 和洋裁ト倫  
 ヲ試験スルコト、スル  
 二十二日ニ終リテ其午後ト二十三日ノ午前中ハ  
 写真ヲ<sup>マ</sup>執ル  
 二十五日卒業式トスル  
 卒業式ハ 卒業生  
                   各級代表者二名  
                   保護者  
                   ヲ以テ行フ  
 試験成績採点ト一覧表ハ卒業式後出来ルダケ早  
 クシ、検定願書出願ニ遅レナイヤウニスル  
 以上

この議事録からは、3年生を卒業させるにあたって、中等教員試験無試験検定への出願が最も大きな問題となっていたことがうかがえる。卒業生に無試験検定へ出願させるためには成績をつけなければならないが、その成績をつけるための試験を実施することが難しいというのである。結局、それぞれの教員免許に関わる主要科目に絞って試験を実施し、他はそれぞれの科目担当教員が合議して成績をつけるという方法が採られた。実際この時には、「倫理」が共通して実施された他に、国文科では「国語」（2科目）と「漢文」、家政科では生物を内容とした「理科」と「化学」、技芸科では「和裁理論」と「洋裁」について、試験が実施されている<sup>16)</sup>。

なお、在学年限がもともと2年の家庭科の生徒については、在学年限短縮の対象とはならず、3月に卒業式が行われている（3月30日）。

### 3 空襲の脅威

3年生が卒業した秋以降になると、教務日誌に空襲に対する警報発令の記事が頻出、連続するようになる。これよりも先、6月15日にも警戒警報が発令されたことが、教務日誌で確認される（同日）。これは、6月

16日未明北九州が爆撃されたB29爆撃機による最初の本土空襲にともなうものであろう<sup>17)</sup>。その後、7～8月のアメリカ軍によるマリアナ諸島攻略によって、サイパン島を基地とした日本本土への爆撃が可能となり、11月にはB29爆撃機が東京に飛来、それ以降日本各地へ空襲が本格化して行ったことは周知の通りである。

樟蔭女専のある大阪府域に爆弾が初めて投下されたのは12月19日のことであり<sup>18)</sup>、東大阪地域については、翌45年1月3日の空襲が最初であった<sup>19)</sup>。教務日誌1月3日の記事にも警戒警報、続いて空襲警報が発令されたことが記録されている（同日）。こうした警戒警報、そして空襲警報の発令記事が連続している状況に、空襲の脅威がごく身近なものとなっていたことをひしひしと感じる。

ところで、1942年（昭和17）4月の東京初空襲以来、各学校では防空のための措置をとることが求められ、それは次第に強化されていた<sup>20)</sup>。1943年（昭和18）9月の「学校防空指針」には、準備事項として「教育訓練」が挙げられ、そのうち「防空全般に関する教育訓練」を「一般教育訓練」と規定し、「消防訓練」「待避訓練」「救護」についての指針が定められている<sup>21)</sup>。

おそらくこうした政府の方針に則った動きとして樟蔭女専では、原則毎週火曜日の6時限目に防空のための教育や訓練が実施されるよう計画されていたものと推定される<sup>22)</sup>。たとえば4月11日には、「防空演習」として「自衛防護及各警察補助員」の調査整備が行われ（同日）、翌週18日には、救急看護法の練習が行われている（同日）。女子生徒に対しては、「学校報国隊」として保育や救急看護・炊事などが特に要請されていたことにもよるのであろうが<sup>23)</sup>、救護訓練がその後繰り返し実施されている（5月9・16日、6月20・27日、7月25日、11月14・20日など）。また6月6日には、「防毒ニツイテノ講話」がなされたりもしている（同日）。空襲に対する準備が樟蔭女専においても日常的になされていたと言えよう。そして、11月28日・12月5日には防空壕への待避訓練が実施されており、本土空襲が本格化する中で空襲の脅威がより増大していたことが推測できる。

なお、1945年3月13～14日の第一次大阪大空襲については、「早朝大阪大空襲大火災アリ布施市ニモ二ヶ所投弾」と記録されている（3月14日）。

こうした空襲の脅威にされされながらも、学校は新年度に向けての動きを止めていない。2月20日には



入学試験の準備がなされ、21・22日の両日、昭和20年度の入学試験が実施された（2月20～22日）。試験は筆答試験と口頭試験からなり、筆答試験は、「文章ヲ訓読シテソノ要旨及感想ヲ記」させるものであった（2月21日）。それに身体検査があり（2月21・22日）、加えて合格発表以前に伊賀駒吉郎校長から受験生に対して入学手続き等についての訓話も行われている（2月23日）。そして22日の試験中には、空襲警報が発令され、試験が中断するという事態に陥っていたという事実も付け加えておこう（同日）。まさに緊迫した状況の下での入学試験であったと想像される。この入学試験の成績発表は3月1日のことであった（同日）。

### むすびにかえて

以上、昭和19年度の樟蔭女専教務日誌について、勤労働員・繰り上げ卒業・空襲という三点から考察した。いずれの点からも、当時の樟蔭女専の動きが政府の方針に則ったものであったことが浮き彫りになってきたように思う。そうした傾向からはむしろ、本土空襲の本格化に代表されるように、対アメリカ戦争の戦局が極めて悪化し敗色が濃厚となる中、非常時の体制が強化され続けていた当時の日本全体の状況を読み取るべきかもしれない。特色ある学校運営は望むべくもなかったのである。

ただ、昭和19年度の前半にはまだ、風俗史・有職故実の研究で有名な江馬務（1884-1979）が定期的に講義を行っていたことも知られる（4月10・22日など）。また、国文科3年生が『万葉集』に関わる故地や京都御所に見学に出かけていたことや（5月25・30日）、同2年生も京都の史蹟見学に出かけていたことも知られる（5月30日）。勤労働員の合間を見つけるようにして行われた授業にまで踏み込むならば、この時期にあっても樟蔭の独自色を見出すことが可能であるかもしれない。そうした教育内容をも踏まえた考察は、今後の課題としたい。

また、今回は昭和19年度の教務日誌の紹介、検討にとどまったが残る昭和17・18年度の教務日誌もあわせて考察するならば、樟蔭女専における勤労働員の実態もより詳細に検討することができよう。この点についても後日を期したいと思う。

### 〔付記〕

本稿は、2003～2011（平成15～23）年度大阪樟蔭女子大学特別研究助成費による成果の一部である。

- 1) 「職員」欄には「欠勤」「遅刻」「早退」の項目が立てられており、また「生徒」欄は、「在籍」「出席」「欠席」「欠課」「遅刻」「早退」「入学」「退学」数を記入するようになっている。
- 2) 田辺聖子は、第19回生として1944年4月に樟蔭女専に入学、1947年3月に卒業した。政府の方針に基づいてこの年に学科再編の結果樟蔭女専に誕生した「国語科」の第1期生にあたる。
- 3) 本稿で紹介する昭和19年度教務日誌の記事によるものは、以下同様に、該当する月日を注記することとする。
- 4) 『日本女子大学学園史 二』（日本女子大学、1968年）70～72ページなど参照。なお、樟蔭女専における昭和19年度の学科改編については、住友元美氏による研究が発表される予定である。
- 5) 樟蔭女専における勤労働員の全体像については、今後、改めて検討したい。
- 6) 物理化学科1年生は、江崎グリコ会社に10月3日まで動員されている（9月15日・10月1日）。
- 7) 教務日誌8月24日記事。なお、田辺の文章にある学科名称は、当時の正式のものとは異なっている。
- 8) 昭和19年3月31日発令六八号「決戦非常措置ニ基ク学徒動員実施要綱ニ依ル学校種別学徒動員基準ニ関スル件」（『近代日本教育制度史料』第7巻、講談社、1964年〈以下、『近代日本教育制度史料』7、と記す〉、34～42ページ）「第三 女子ノ学校」の項目参照。
- 9) たとえば先述のように、8月7日から約2か月の間、育児科1年生が住友化学工業会社に勤労働員されている（8月4・7日、10月18日）。
- 10) 教務日誌10月2日記事には、「本日学校工場休業ニツキ関係職員生徒登校セズ、本日工場ハ物化育児科ノミ」と記されており、学校工場に動員されていない学科の生徒が学校外の工場へ出勤していたことが確認される。
- 11) 教務日誌には「本科二年」と記されているが、「育児科ヲ除ク」と注記されていることから考えても、動員されたのは昭和19年度入学の1年生と考えて誤りないであろう。「二年」は記録者の誤記と考えられる。
- 12) 田辺『楽天少女通ります』（角川春樹事務所、2001年）83～88ページ・『田辺写真館が見た“昭和”』（文藝春秋、2005年）223～224ページ。
- 13) 昭和16年10月16日勅令第九百二十四号「大学

- 学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ臨時短縮ニ関スル件」(『近代日本教育制度史料』7、151 ページ)。
- 14) 昭和 18 年 11 月 25 日 文部省令第八十号「大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ昭和十九年度臨時短縮ニ関スル件」(『近代日本教育制度史料』7、181~182 ページ)。
- 15) 『職員會誌』は、昭和元~19 年の間の樟蔭女專教職員による會議の議事録である(拙稿「『職員會誌』から見た昭和初期の樟蔭女子専門学校」〈『大阪樟蔭女子大学論集』第 42 号、2005 年〉参照)。
- 16) 試験問題の詳細については、拙稿「十五年戦争期の女子専門学校国語試験問題」(『大阪樟蔭女子大学論集』第 46 号、2009 年)・「十五年戦争期の女子専門学校『家事』試験問題」(同前第 47 号、2010 年)・「十五年戦争期の女子専門学校『裁縫』試験問題」(『大阪樟蔭女子大学研究紀要』第 1 号、2011 年)を参照されたい。
- 17) 小山仁示『改訂 大阪大空襲』(東方出版、1989 年改訂、初出は 1985 年) 33 ページ。
- 18) 小山仁示前掲注 17) 書 38~40 ページ。
- 19) 小山仁示前掲注 17) 書 44 ページ、『東大阪市史』近代Ⅱ(東大阪市史編纂委員会、1997 年) 873 ページ。
- 20) 昭和 17 年 6 月 10 日 畫文五号「学校防空ノ強化徹底ニ関スル件」(『近代日本教育制度史料』7) 199~204 ページ。
- 21) 昭和 18 年 9 月 17 日 發総二一〇号「学校防空指針」(『近代日本教育制度史料』7) 204~222 ページ。
- 22) 4 月 11 日を最初として、毎週火曜日の記事に防空訓練に関わる記事を見出すことができる。
- 23) 昭和 16 年 10 月 11 日 發体一五九号「女子学校報 国隊ノ実践訓練ニ関スル件」(『近代日本教育制度史料』7) 199 ページ。